

## 全国学力・学習状況調査の 結果分析・考察



令和7年4月17日(木)に全国一斉実施された小6対象の全国学力・学習状況調査について本校の状況をお知らせいたします。また、京都市の調査結果が下記 URL に公表されていますので、あわせてご覧ください。

[京都市教育委員会事務局：学力向上](https://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000257347.html)

<https://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000257347.html>

### 【国語】

平均正答率は、全国平均を下回っています。

学習指導要領の内容別では、知識及び技能の「情報の扱い方に関する事項」と思考力、判断力、表現力等の「読むこと」が全国的な傾向と同様に低い正答率でした。

情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使うことができるかをみる問題では、正答率が全国と比べ20%以上低い結果でした。さらに**目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかをみる問題**でも、同様でした。

このことから、それぞれの資料にある語句や情報を丸や四角で囲んだり、線でつないだりするなどして、どの部分と結びつくのか視覚的に明らかにしながら読むことが効果的であると考えられます。どの教科でも大切にしていきたいと思います。

### 【算数】

平均正答率は、全国平均を下回っています。

学習指導要領の領域別では、「測定」が他の領域(「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」と比べて低い傾向でした。

伴って変わる2つの数量の関係に着目し、**問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述**できるかをみる問題について正答率が35%と低い結果でした。これは、左に述べた国語の課題とも通じるところがあります。また、昨年度同様、記述については苦手としているようです。

**分数や割合の本質的な理解**について課題が見られました。計算方法や公式は覚えていても、なぜその計算方法が成り立つのかについて十分な理解ができていないということになります。分数については、1を何等分かにした1つ分である単位分数への着目をさらに意識付けていく必要を感じます。本質的な理解ができるよう授業を進めていきます。

### 【理科】

平均正答率は、全国平均を下回っています。

学習指導要領の領域別では、「エネルギー」を柱とする領域が全国的な傾向と同様に低い正答率でした。

身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかをみる問題、電気の回路のつくり方について、**実験の方法を発想し、表現すること**ができるかをみる問題について、非常に低い正答率でした。

**新たな問いを見出して表現したり、結論を導いた理由を表現したりする力**に課題があります。問題を解決するために思考したことを言語化し、表現する力を高めていくことが重要となります。授業でも視点を明確にし、「どうして」のなげかけに自分の言葉で説明したり、表現したりできる場をさらに設定していきたいと考えます。

生活や学習に関すること71の項目について、自分に一番近い答えを選択する方式で行われました。その中から、気になった項目を取り上げました。

Category	1. Using	2. Somewhat using	3. Not using much	4. Not using at all	5. Other
大藪小	100%	0%	0%	0%	0%
京都府（公立）	85%	10%	5%	0%	0%
全国（公立）	85%	10%	5%	0%	0%

グループ	1. している	2. どちらかといえば、している	3. あまりしていない	4. 全くしていない	5. その他
大蔵小	40%	32%	22%	4%	2%
京都府（公立）	38%	42%	15%	3%	2%
全国（公立）	39%	43%	14%	3%	2%

対象	1. している	2. どちらかといえば、している	3. あまりしていない	4. 全くしていない	その他	無回答
大藪小	40%	42%	15%	2%	1%	0%
京都府（公立）	56%	34%	8%	2%	0%	0%
全国（公立）	55%	35%	8%	2%	0%	0%

本校では、学年が上がるにつれ、遅刻者が増えていく傾向があります。「夜寝るのが遅いから朝、起きられない」「朝早くに起きられないから、朝ご飯を食べる時間がない」という悪いサイクルに陥っている人はいませんか。生活習慣の乱れは、様々なところに影響を及ぼします。まずは毎日おおよそ同じ生活リズムで過ごすところから始めましょう。学校でも今年度から、放課後の時間の使い方を計画して実行する取組を進めています。

大蔵小

京都府〈公立〉

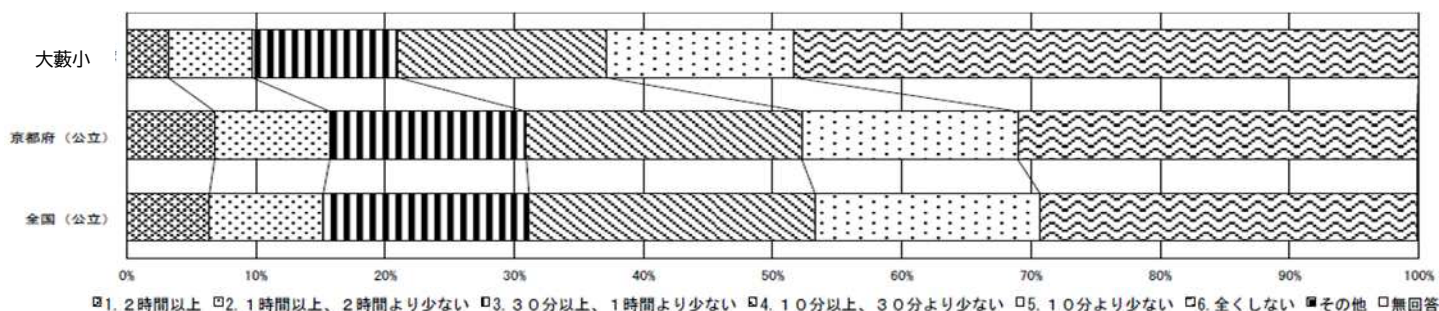
全国〈公立〉

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

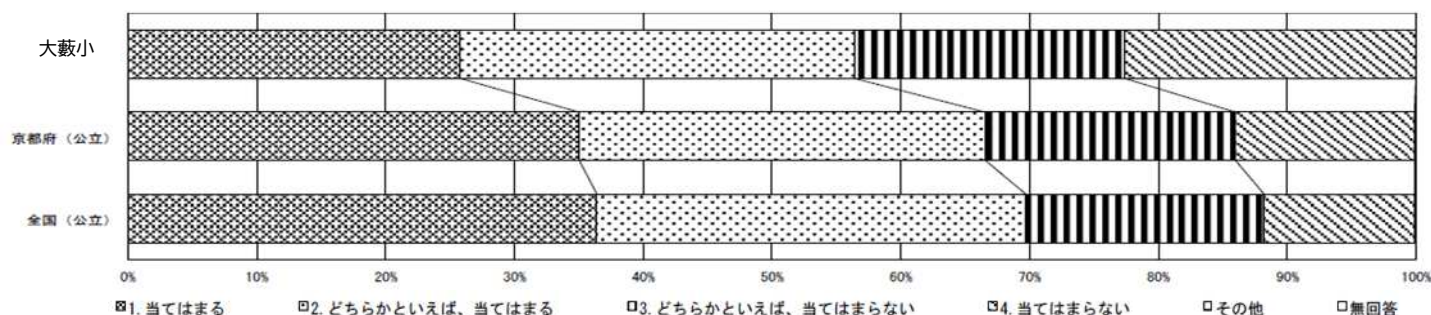
1. 3時間以上 2. 2時間以上, 3時間より少ない 3. 1時間以上, 2時間より少ない 4. 30分以上, 1時間より少ない 5. 30分より少ない 6. 全くしない その他 無回答



(5)学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、**読書**をしますか。(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)



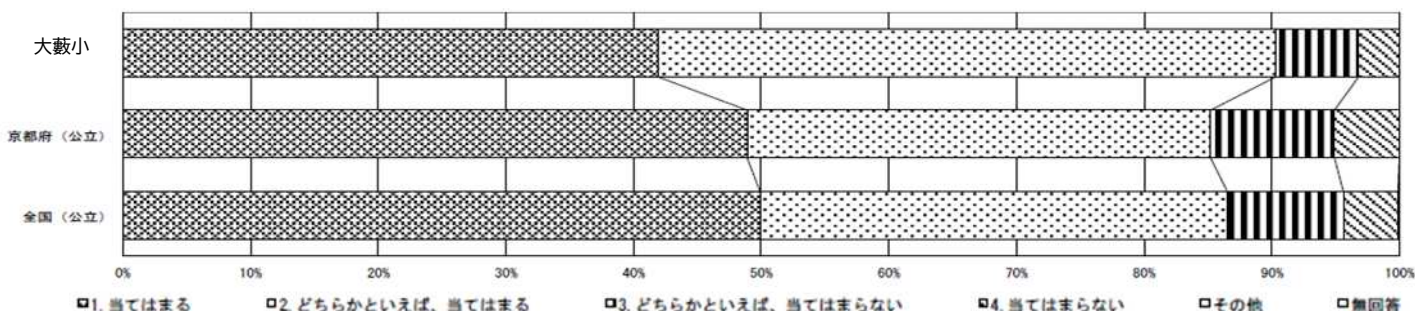
(6)**読書は好き**ですか。



(4)勉強をする時間について、上位層は全国と比べて変わらないものの、下位層が非常に多くなっています。時間だけの問題ではありませんが、家庭学習の習慣がしっかり身に付いている子は、学力や集中力が高いとも言えます。最近、「宿題がない学校」もあるようです。それは、「家庭で学習しない」ことではなく、自らが考え自らの学習を調整する力によって、自らの学びを進めることができるからです。本校が取り組む自主学習は、その考えに基づくものです。まずは習慣化、そして自らのよりよい学びの時間となるよう時間を確保してほしいと思います。

(5)(6)からは、読書が好きな子は多いが、読書をする、読書時間には直結していないことがわかります。手に取りがちなのはスマートフォンやタブレット、ゲーム機になっていませんか。身近に本がある環境を学校でもご家庭でもつっていきましょう。

(7)学校に行くのは楽しいと思いますか。



90%の子が学校に行くのは楽しいと回答しています。嬉しいことです。ただ、残りの10%の子についても気にかけていく必要があります。6年生にとっては、長かった小学校生活も残り3カ月となります。卒業まで、充実した小学校生活を送れるよう、教職員一丸となりサポートしていきたいと思っています。今後とも本校教育活動に、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

学校としては、今後も子どもたちの「わくわく」を大切に、将来の子どもたちの幸せを願って、学校教育目標「自分でできる みんなとできる 大藪っ子」の達成をめざし、邁進していきます。そして、子どもたちが「大藪小学校で過ごせてよかった」と思えるような学校に、保護者の方が「大藪小学校に通わせてよかった」と思ってもらえるような学校にできるよう、これからも努力していきます。